

5 取組による効果

(1) 地域づくり・人づくりの効果

活動

地域の課題解決に取り組む

- ・野生獣害防護柵の設置
- ・地域そば祭りの開催



効果

- ・目的意識の共有
- ・活動の効果を実感
- ・地域の連帯感醸成

子どもも楽しめる地域活動

- ・水路の生きもの調査実施
- ・生きものマップ等の作成



- ・子どものふるさとへの愛着心
- ・子育て世代の地域活動への巻き込み

地域づくりの意欲の高揚

- ・宇都宮大学との連携
- ・交付金活動や他の活動組織との交流
- ・活動から自立した組織設立



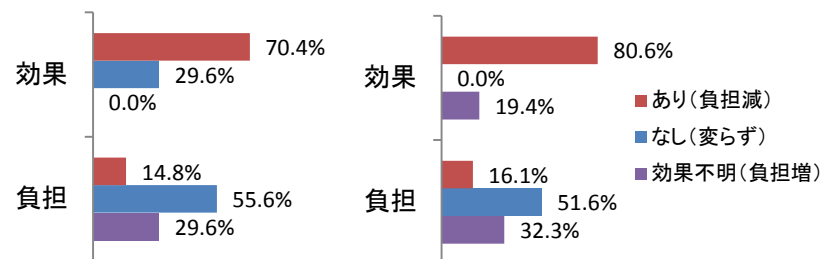
- ・視野を広げる活動
- ・新たな取組への意欲向上
- ・課題解決への新たな視点
- ・「夢」の共有

(2)これまでの活動で生み出した効果

○アンケート調査結果

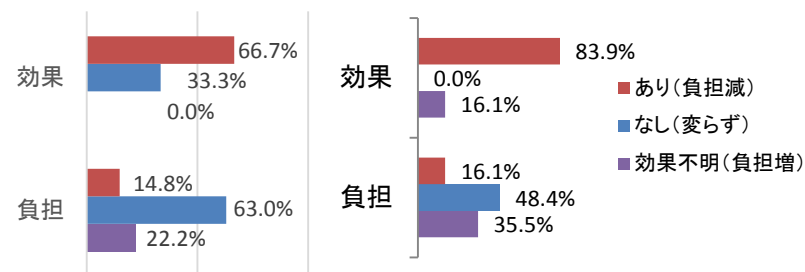
活動開始から10年目を迎えるにあたり、活動が地域にどんな変化を生んだのかを調査しました。

水路・農道の保安全管理
(H20) (H28)



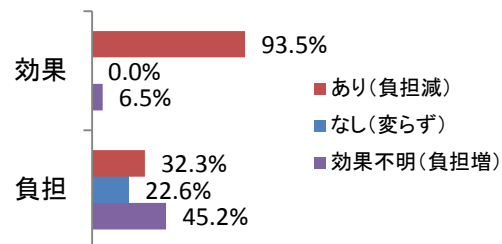
水路の機能保全、農道の安全性の向上
高齢化、40～50代の作業負担増

耕作放棄地対策
(H20) (H28)



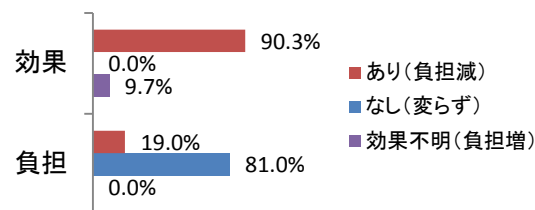
対策（そば栽培）が有効に機能している反面、
面積の増加により作業負担増

野生獣害対策(H28)



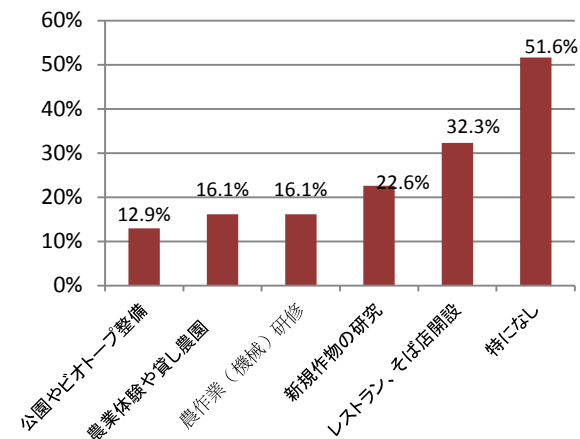
柵設置により課題解消したが、
保安全管理作業で負担増

災害等の復旧活動(H28)



地域での復旧作業にも構成員は
参加したため負担は変わらず

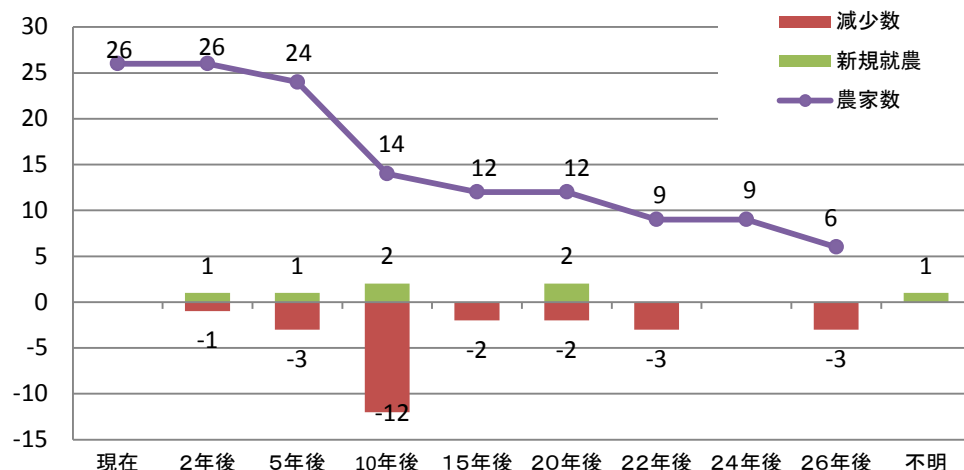
今後やって欲しい活動(全戸)



6 現在と将来に向けた活動の課題

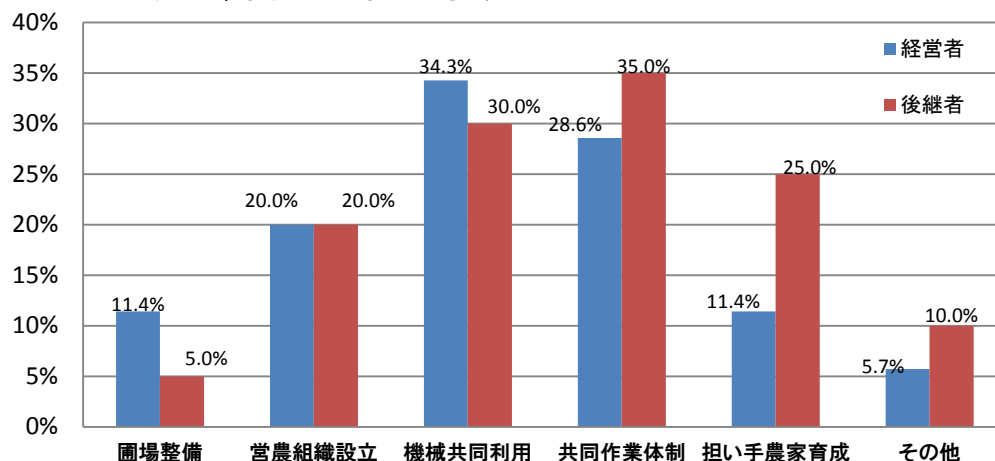
(1) 現在の状況とこれからの課題

人 経営者目標年齢からの営農者数の推移



経営主が農業に従事する意欲のある年齢から推察すると**10年後に地域農業者は激減します。**地域の農業に必要な事項の回答を参考するなど、**今後の検討が必要となってくる**と考えられます。

地域の農業に必要な事項



これからの地域の農業に必要な事項については、**後継者(*1)は、営農における共同作業体制と担い手農家の育成を上げています。**

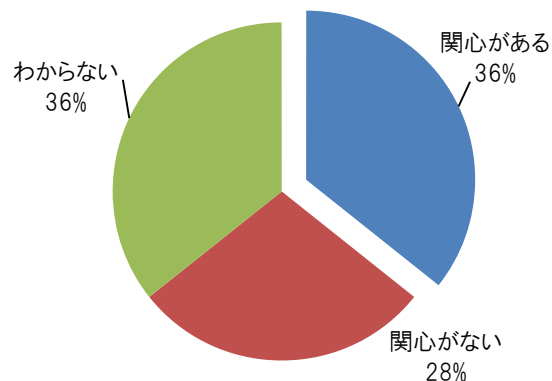
*1 アンケートでは農業経営主の高校生以上の子どもを対象に調査

(2) 取組による意識の変化

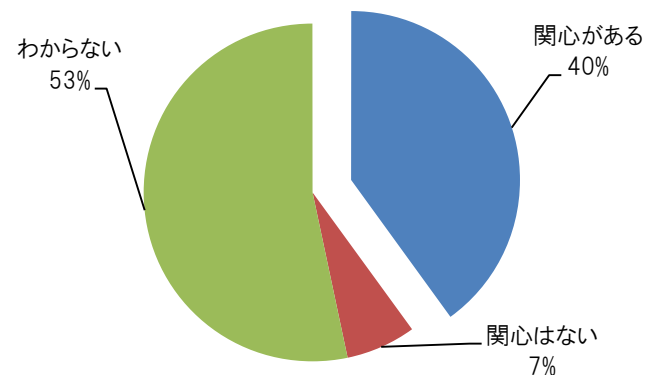
○アンケート調査結果：後継者の意識の変化（平成21年度と平成28年度の比較）

平成21年度調査

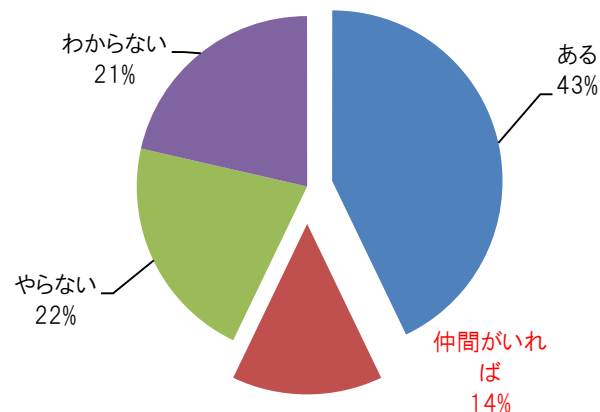
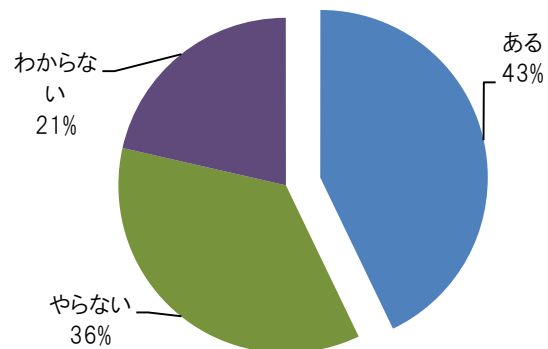
農業に関する考え



平成28年度調査



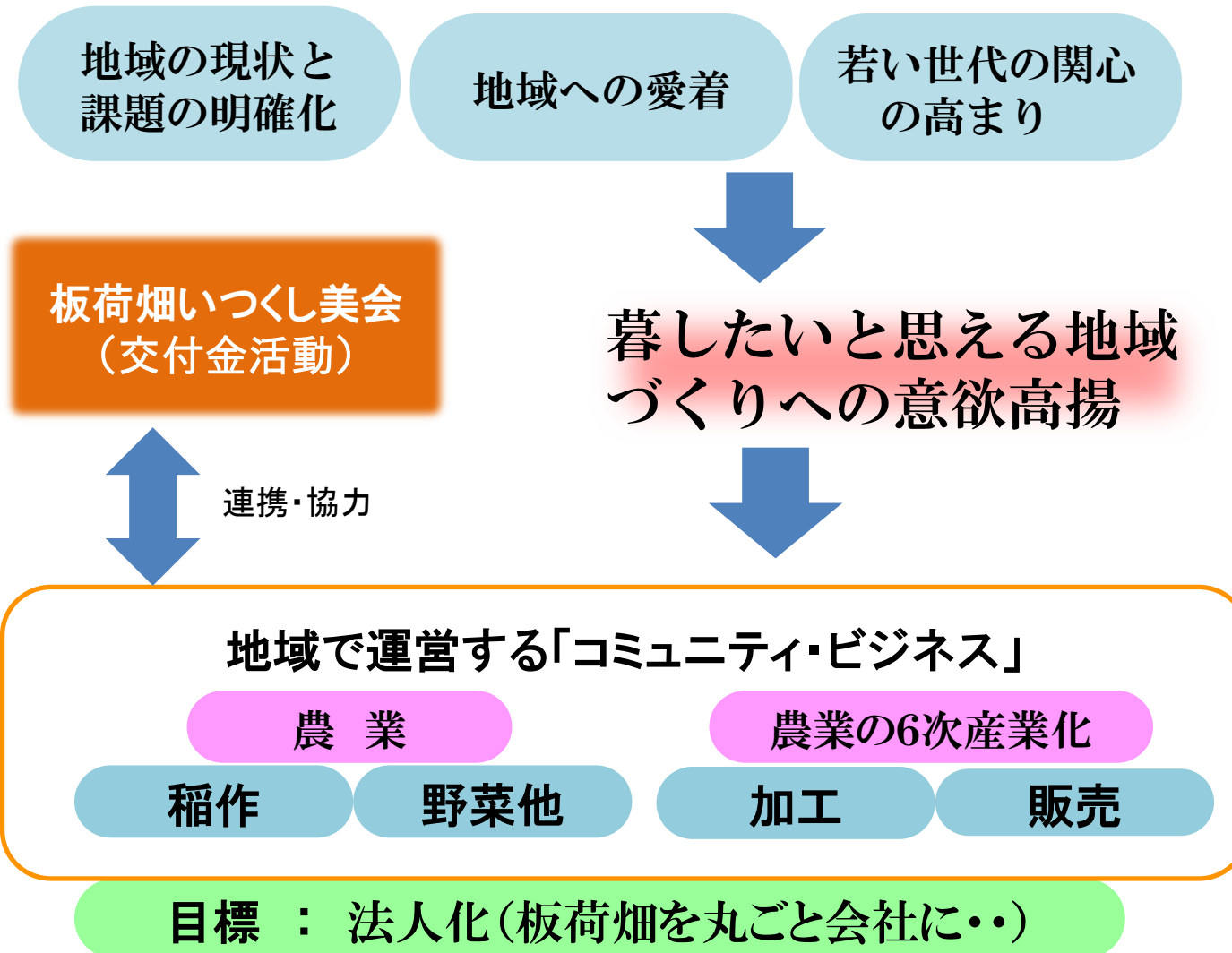
就農に対する考え



平成21年度の調査と比べて、後継者の農業に関する関心は少し高まっています。
「仲間がいれば」がこれからの対策のポイントです。

(3)これからの方針

この活動により、地域が変化。



平成29年2月、栃木県元気な農業コンクール
で最高賞となる「**とちぎ元気大賞**」をいただきました。

講 評

若い世代が地域をけん引し、
地域課題の解決を積み上げることで、
期待や意欲が高まり
地域全体が活性化している。



「今後のビジョン」
自分の地域に愛着を持ち、
“**農**”と“**住**”を楽しめる仕組みを
若い世代と共に考え継承する。

